

目標（11）

一人ひとりの元氣と 健康づくりを応援します



▲健康自生地フェスタ

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活していくためには、何よりも健康であることが大切です。一人ひとりが健康の大切さを自覚し、日々、健康づくりを意識した生活を送れるよう、個人の健康を支援するための環境づくりを進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 一人ひとりが自身の健康状況を把握し、健康づくり活動に積極的に参加しています。 ◇ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。 ◇ 誰もが住み慣れた地域や家庭で健康に暮らしています。 ◇ 健康づくりに取り組む人と応援する人が増加しています。

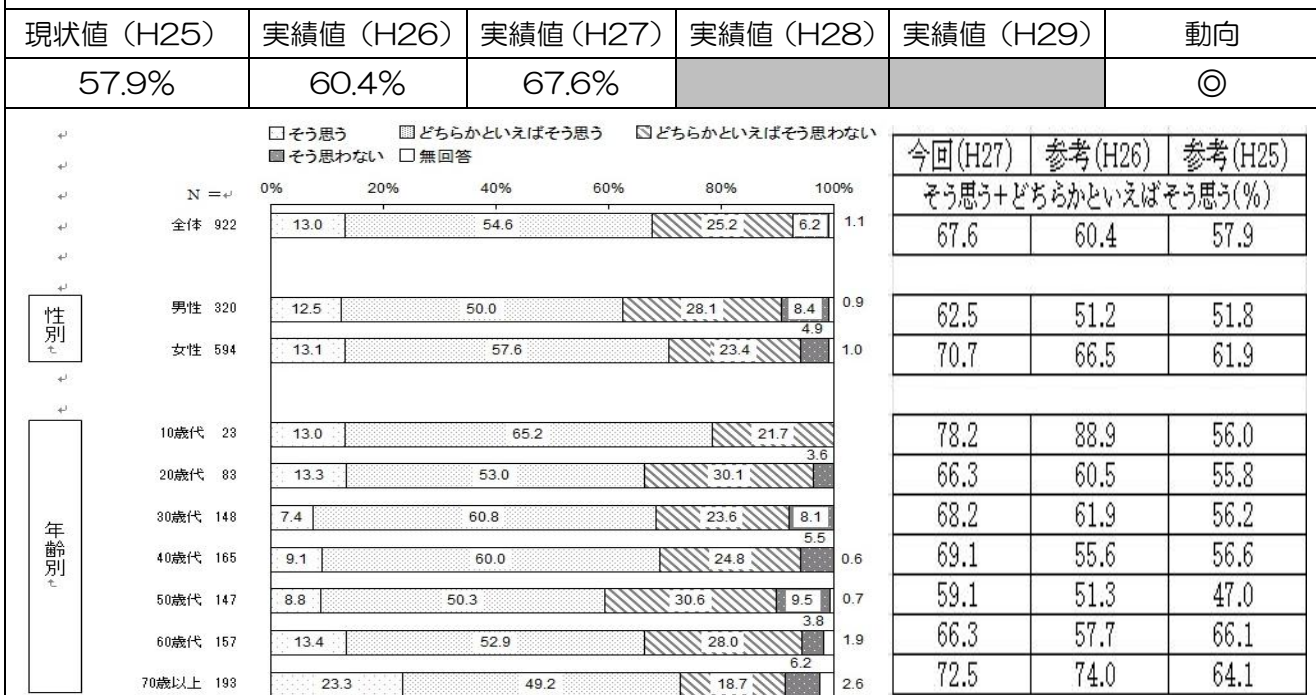
II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
（1） 高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。	①健康自生地が集まる「健康自生地フェスタ」を開催した。	H27.8
	②健康自生地を巡る「健康自生地ウォーキングツアー（吉浜地区）」と「健康自生地バスツアー（高浜商店振興会と共催）」を開催した。	H27.11
	③健康自生地スタンプラリーを実施した。（第4シーズン）	H27.12～
（2） 今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。	①認知症予防プロジェクトを毎月開催した。	H27.5～
	②認知症予防講演会を実施した。	H27.8
	③機能健診「脳とからだの健康チェック 2015」を実施した。	H27.9～
（3） 運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。	①若年層の健康づくりを目的とした「ズンバ」を始めた。	H27.4～
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。	H27.4～
	③いきいき健康マイレージ事業運営委員会を開催した。	H27.9
（4） 多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。	H27.4
	②病院群輪番制による2次救急医療体制の確保を行った。	H27.4
	③地域医療ネットワークを知っていただくため啓発を行った「上手なお医者さんのかかり方」パンフレットを配布した。	H28.2
参画・協働・情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ☆健康自生地は地域の人々が主体的に運営しており、行政は積極的に現場へ足を運びとともに、情報の発信やイベント企画、立ち上げ補助を実施することで応援している。 ☆地域で認知症の人を支え、地域と連携し支援する人材である認知症予防スタッフを養成することが出来た。 ☆市民を含めた運営委員会において、いきいき健康マイレージ事業のより効果的・効率的な実施方法を検討している。 	

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

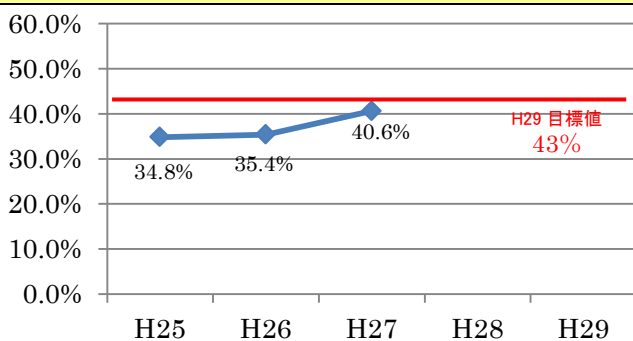
1. 市民意識調査結果

【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思ふ

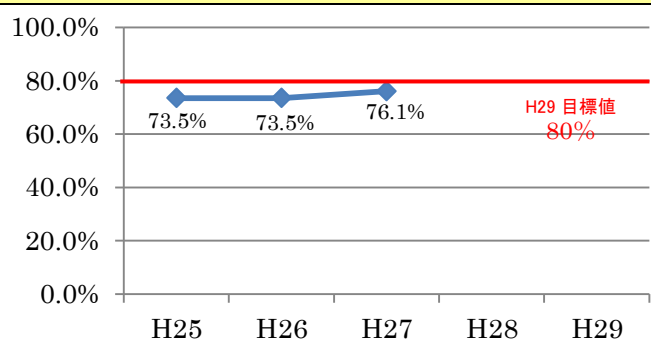


2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合



2) かかりつけ医を持っている人の割合



3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- ・「市民意識調査」の結果は、前年度から 7.2 ポイント増と、順調に実績値を伸ばしている。健康自生地の充実や脳とからだの健康チェックの実施、いきいき健康マイレージ事業の推進など、健康づくりを応援する取組みを積極的に展開してきた成果であると考えられる。

一方で、他の年代と比べ 50 代の実績値が低くなっている。介護や認知症の未然防止のためには、若い頃から健康づくりに取り組むことが大切であり、若年層に対する健康づくりを応援する取組みも展開していく必要がある。
- ・「指標 1」は、脳とからだの健康チェックや、その後の歩行計の貸与などにより、日常的にウォーキングを行ったり、健康自生地に通ったりする高齢者が増えており、5.2 ポイント増と大きく実績値を伸ばした。
- ・「指標 2」は、パンフレットの配布など啓発活動を行ったことにより、2.6 ポイント増加した。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p>（１）健康自生地の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康自生地の地域差を減少させるため、数の少ない地域での積極的な創出が必要である。 健康自生地の認定が始まってから２年以上が経過し、数だけでなく、介護予防・認知症予防につながる取組みなどの質の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康自生地が少ない、高取・翼地区で積極的に創出するため、まちづくり協議会と協力関係を築きながら、新たな健康自生地を発掘・創出する。 	H29.3
	<ul style="list-style-type: none"> 認定後１年以上経過した健康自生地の再審査に加え、健康自生地の担い手や利用者にアンケートを実施するなど声を拾い、実態調査や課題解決策の検討を行う。 	H28.12
<p>（２）「脳とからだの健康チェック」を活かした認知症予防事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症の発生を未然に防ぐ、予防の取組みを行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動と認知課題を組み合わせた「コグニサイズ」を実践し、認知症予防を図る。 	H28.7
	<ul style="list-style-type: none"> 自宅への閉じこもりが認知症の発生リスクを高めるため、ホコタッチを活用して、街中へ出かける（健康自生地など）しくみを構築する。 	H28.12
<p>（３）病診連携の機能強化と地域医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日や夜間における救急医療体制の確保と高度医療や入院治療など市民の医療ニーズに対応できるための地域医療の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に対して地域医療ネットワークシステムの周知を図る。 	H29.3
	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医を持ち、身体の不調時には、まずかかりつけ医を受診するよう周知する。 	H29.3
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆健康自生地に関する情報誌「でいでーる」の編集にあたり、市民の方を含めた編集チームを立ち上げることで、市民目線で必要とされている情報や、地域の方ならではの情報を発信する。 ☆地域全体で認知症の人を支えるためには、地域と連携した支援体制を構築することが必要であり、引き続き、人材の発掘そして人材育成に取り組んでいく。 ☆いきいき健康マイレージ事業の実績やデータ分析の結果などをお知らせし、効果を広く伝えることで、参加者の増加を目指す。 	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

—

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- ・高齢化の進展に伴い、認知症予防施策は大変重要になってくるため、今後も積極的に事業を展開してほしい。

その他、目標の達成に向けて

—